



思いやりの心ってなあに



そなえよつねに
ボーイスカウト

No.1

ウサギとリンゴの木（やさしい心）

No.2

お母さんの顔（おもいやりの心）

No.3

クマさんのたべもの（ものを大切にすること）

No.4

電車の中で（マナーってなあに）

No.5

文房具の取り合いから（相手を思いやる気持ち）

No.6

これ何だ（ものを大切にする心）

No.7

良いところさがし（友だちの良いところ）

No.8

ケンカの結果（みんななかよし）

No.9

学校に行きたくないなあ（友だちの気持ち）

No.10

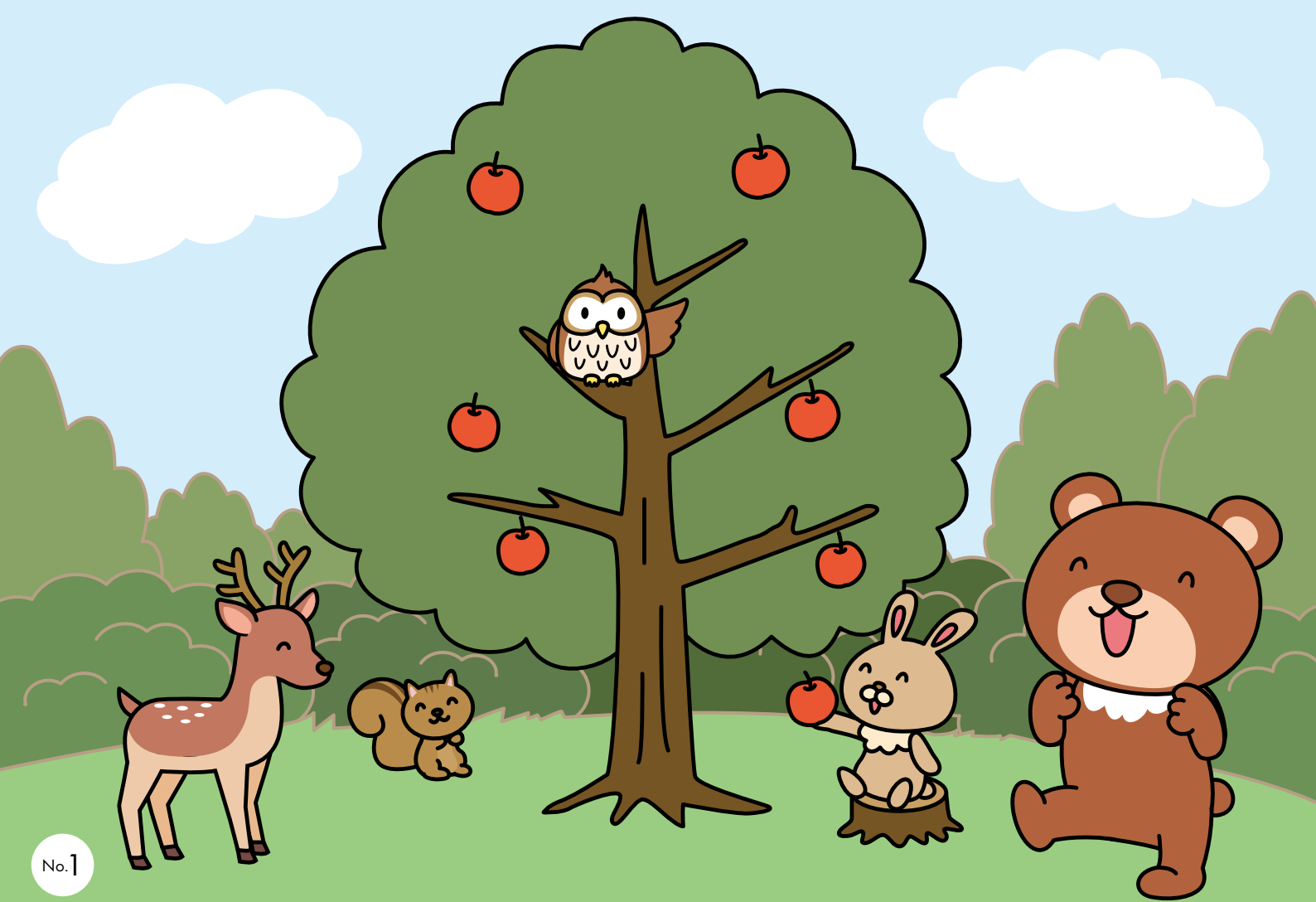
星空を見つめてみよう（地球の仲間）

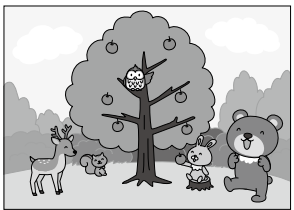
No.11

カブリンピックに向けて（互いに助け合う心）

No.12

どんな気持ちかな（友だちの気持ちを考えてよう）





No.1

ウサギとリンゴの木

(やさしい心)

ストーリー

フクロウがとまるリンゴの木の下に、クマ、シカ、リス、ウサギが集まりました。

ウサギは、途中の八百屋さんでリンゴをひとつ買ってきました。

みんなでわけて、おやつにしたかったです。5つに分けたら、

おやおや？ 体の大きなクマには小さすぎて「もう少し食べたいな！」

あれあれ？ 体の小さなリスには大きすぎて「おなががいっぱいだ！」

そこで、フクロウが言いました。

「もう少しこの木のリンゴが大きくなるよ。ほくはみんなにプレゼントしたくて、この木を大事に育てているんだよ。」

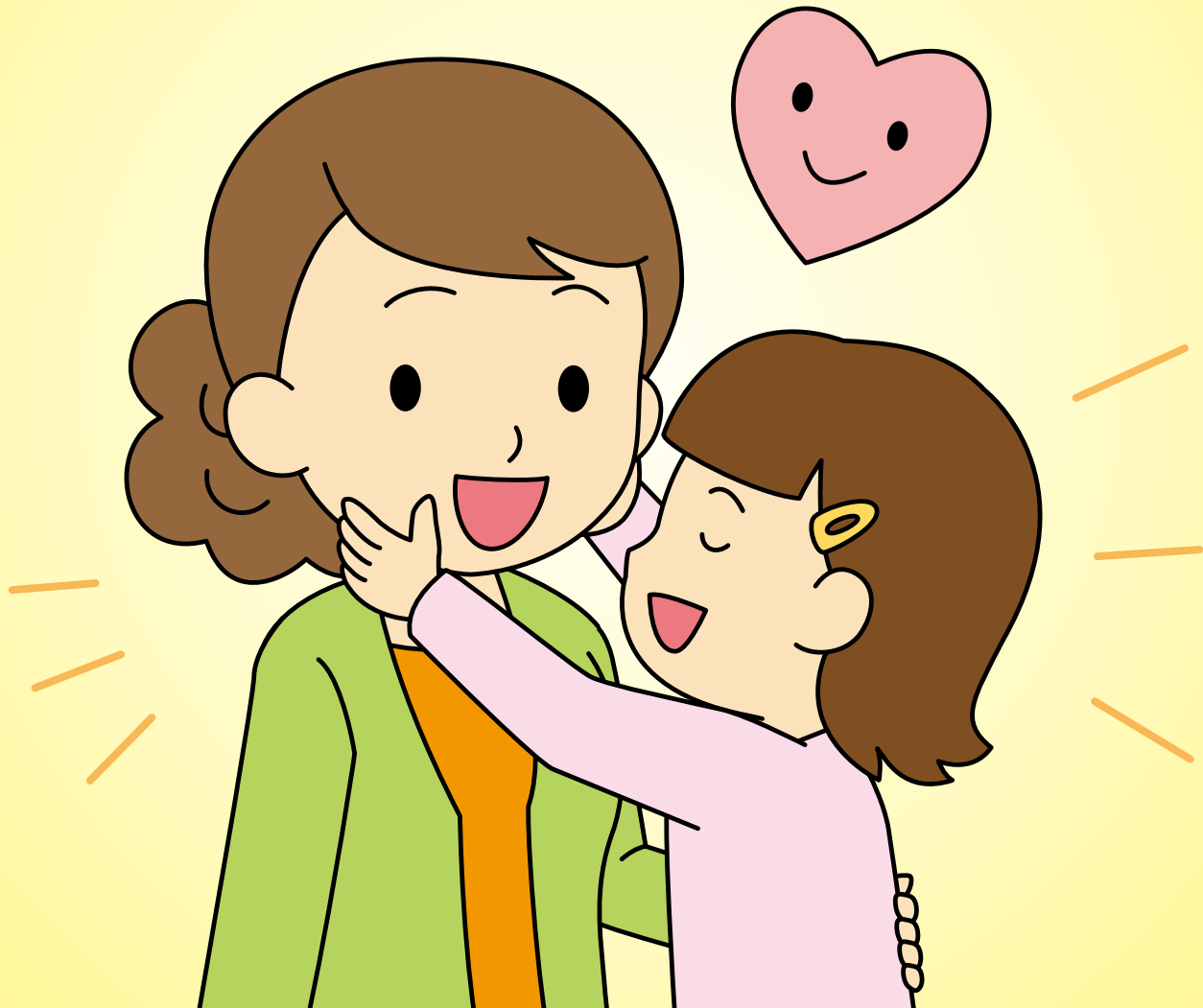
それを聞いたみんなは、とってもうれしくて、おいしいリンゴを想像しながら、フクロウといっしょにリンゴの木のお世話をしました。

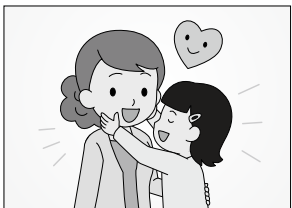
スカウトへの問いかけ

- ・ウサギが八百屋さんで買ってきたひとつのリンゴをどのように分ける
と良いでしょうか？
- ・フクロウは、時間をかけてリンゴの木を育てて、どうして友だちのみ
んなにプレゼントしようと思ったのでしょうか？

まとめ

- ① 一人ひとり、身体の大きさも考え方もいろいろあることに気づかせよう。
- ② みんなが仲良くするために、相手の気持ちを考える「思いやりの心」が大切なことに気づかせよう。
- ③ 一人ひとり、体の大きさも考え方もいろいろで、それでいいのだということに気づかせよう。
- ④ 自分がうれしいことは、みんなの「うれしい」にも、なることを知らせよう。





No.2

お母さんの顔 (おもいやりの心)

ストーリー

私は、8歳の女の子です。

私は、生まれてから一度も「お母さんの顔」を見たことはありません。なぜならば、私は生まれつき目が見えないのです。

ただ、お母さんの顔は、手で触れて知っています。

とても温かくて、すべすべしています。いい匂いもします。

お母さんは、私のことを「雪のように色が白くて、かわいい」と言ってくれます。

私は、触れると冷たい雪のことはわかりますが、『白い色』のことはわかりません。

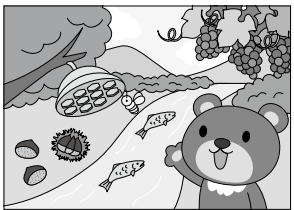
スカウトへの問いかけ

- ・目が不自由であることは、どういうことでしょうか？
- (どんなことに困るのでしょうか?)
- ・町で白い杖をもっている人を見たことがありますか？
- ・白い杖にはどんな役割があるのでしょうか？

まとめ

- ① 白い杖の3つの役割を知る。
 - ・ 安全の確保 (前方の障害物や危険の防衛)
 - ・ 歩行に必要な情報 (段差や歩道の切れ目等の目印など) の収集
 - ・ ドライブバイや他の歩行者・警察官などへの注意喚起
- ② 白い杖を持っている人に会ったときに、どんな対応したら良いかを知る。
- ③ 他の人を気づかう行動、相手の気持ちを知ることの大切さを理解する。





No.3

クマさんのたべもの (ものを大切にすること)

ストーリー

森にすむクマは、くいしん坊です。

秋には川で、美味しいサケをとって食べます。

森では、木の実や新芽、何もないときは木の皮をはいで食べます。

甘いものが大好きなクマは、ミツバチやスズメバチの巣も大好きです。

クマは、食事のときに自分自身で3つのルールを決めています。

そのルールは、

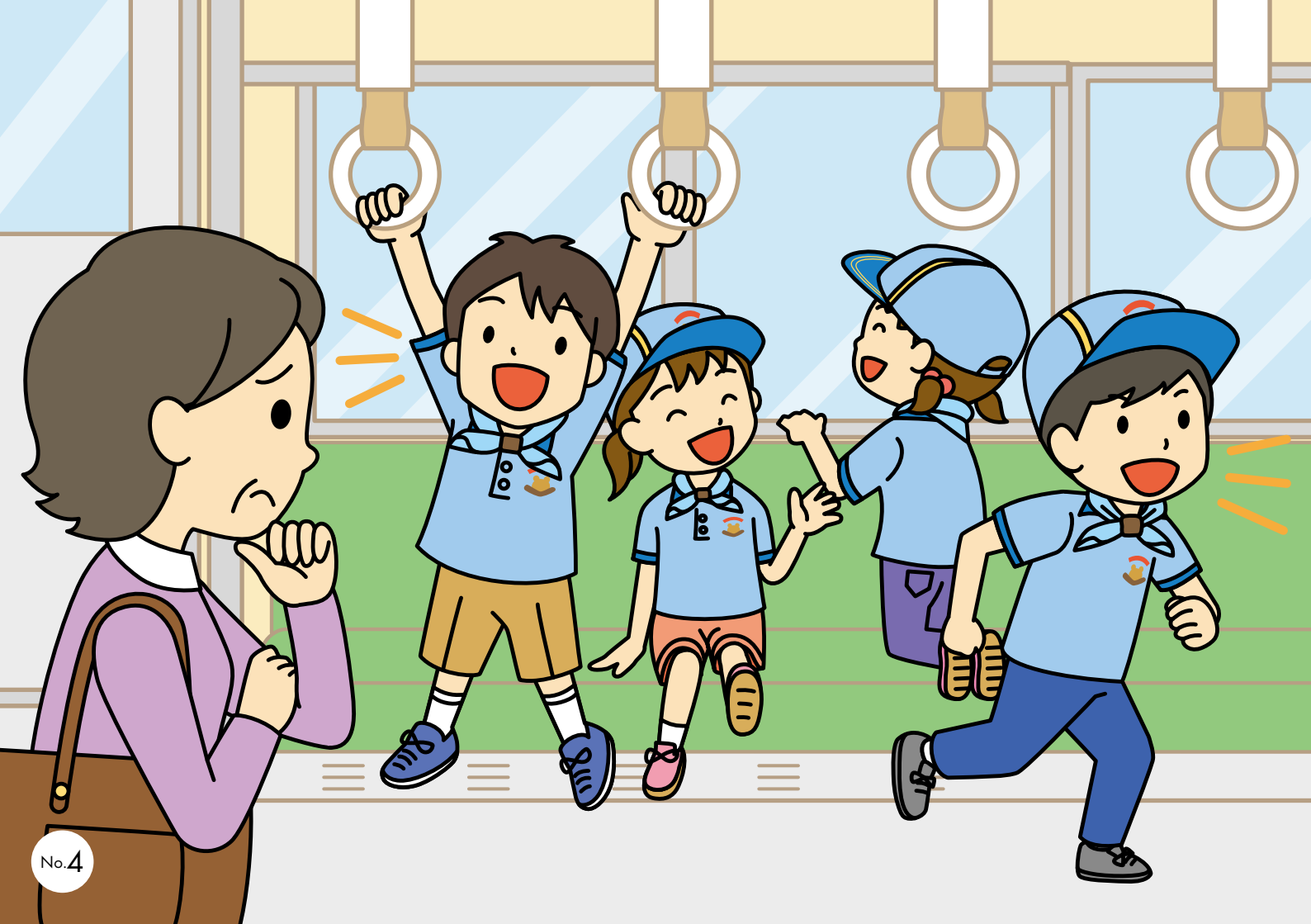
1. 木の実や魚、ハチの巣などの食べ物は、食べる分だけしかとりません。
2. 森や川からとった食べ物は、残さず食べます。
3. 食事をするときには、食べられることに感謝をこめて必ず「いただきます」と言います。

スカウトへの問いかけ

- ・クマは、どうして人間のように食べ残しをしないのでしょうか？
- ・クマは、なぜ食事をするときには感謝をこめて必ず「いただきます」と言うのでしょうか？
- ・あなたが食事をするときには、どんなルールを決めていますか？

まとめ

- ① 感謝の心に気づかせ、食べ物の大切さを知る。





No.4

電車の中で (マナーってなあに)

ストーリー

今日はビーバー隊のみんなで隣の公園へ電車に乗って出かけました。電車は比較的空いていたので、スカウトたちは全員座りました。

しばらくすると、靴をはいたまま後ろ向きに窓の外を見る子、「探検しよう」と車内を端から端まで走り出す子、つり革にぶら下がる子、楽しくて大きな声でお友だちと話をする子がいます。

乗客が困った顔をして見ています。

スカウトへの問いかけ

- ・ この絵を見てみんなどんなことを思いましたか？
- ・ 電車やバスの中でのマナーはどうすればいいのかな？
- ・ 自分だけでなく、お友だちや周りの人が気持ちよく電車に乗るために
どんなことができるかな？

まとめ

- ① 電車に乗る前、乗っているとき、降りるときのことも考える。
- ② みんなが気持ちよく電車に乗るためのマナーを知る。
- ③ その他の場所でのマナーも考えてみる(学校の廊下や家の中)。





No.5

文房具の取り合いから (相手を思いやる気持ち)

ストーリー

教室にある色鉛筆セットを使って、七夕の短冊作りをしていました。早いもの順に色鉛筆を使い始めたために、トオルくんが使いたいと思っただ色鉛筆はノボルくんのそばにありました。トオルくんはどうしてもその色が使いたかったので、ノボルくんのそばから何も言わずに持ち出そうとしました。ノボルくんがそのことに気づいて、言い合いのケンカになってしまいました。

スカウトへの問いかけ

- ・ どうしてケンカになったのでしょうか。
- ・ トオルくん、ノボルくんはどんなことを言いたいのでしょうか。
- ・ 言い争いを止めるためには、どうしたら良いのでしょうか。

まとめ

- ① 譲り合いや、相手を思いやる気持ちが大切なことに気づく。
- ② 日頃の出来事をあわてずに、自分たちで解決する工夫をする。
- ③ このカードと異なる場面も考えてみる。

※S f H (危害から守る) 啓発教育では、出来事を解決するだけでなく、思いやりの心に気づかせる助言やプログラムも大切である。





No.6

これ何だ

(ものを大切に作る心)

ストーリー

今日はスカウトの日です。

奉仕活動で町内の清掃をしました。

ポイ捨てされているゴミを拾い、とてもきれいになりました。

ゴミのない道路はきれいで、とても気持ちが良いです。

みんなで集めたゴミを分別しました。燃えるゴミ、燃えないゴミ、リサイクルのペットボトル、空き缶はアルミ缶とスチール缶に分けました。

ヒカル君が「これ何だ」と拾ってきたゴミをトング（金ばさみ）でつかんで言いました。

スカウトへの問いかけ

- ・今はゴミになって捨てられてしまったものが、ゴミになる前は何だったのか考えてみよう。どんな役に立っていたんだろうね。
- ・リサイクルとして分別したものがどんなものになっていくかわかるかな。
- ・まだ使えるものがポイ捨てされているのを見て、もし自分がそのゴミ（捨てられたもの）だったらどんな気持ちになるかな。

まとめ

- ① 拾ってきたゴミは、ゴミになる前に人の役に立つために作られたことを理解させる。
- ② 拾ってきたゴミは、自分勝手に不要になったからという理由でポイ捨てされたためにゴミになってしまったことを理解させる。
- ③ 不要になったと思ったものでも、資源として再利用できるものがたくさんあることを気付かせる。
- ④ 物にも感謝の気持ちをもって使うことを知らせる。





No.7

良いところさがし (友だちの良いところ)

ストーリー

ほとくの隊長は「スカウトは観察と推理が大切」といつも言っています。集会のときには、観察ゲームや忍び寄りや宝探しなど、いつも楽しいゲームをやってくれます。

今日は集会の開会セレモニーの時、「今日の集会で、自分以外の人の良かったところを一つ以上見つけてみよう」と言われました。

それから、「誰の、何が、どんなふうに良かったのかを後で聞かせてください」と言われました。

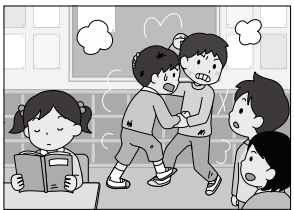
スカウトへの問いかけ

- ・ 今日みんなが見つけた「誰の、何が、どんなふうに良かったのか」を発表しましょう。
- ・ 人の良いところと嫌なところ(悪いところ)とどっちが気になりますか。

まとめ

- ① 周りの人の良いところに気づいたことをほめる。
- ② 最後に、指導者が見つけたスカウトの良いところを発表する。
- ③ 気づかないところで、多くの人に親切にされていることを話し、その親切にたくさん気づけるように周りを観察することをうながす。





No.8

ケンカの結果 (みんななかよし)

ストーリー

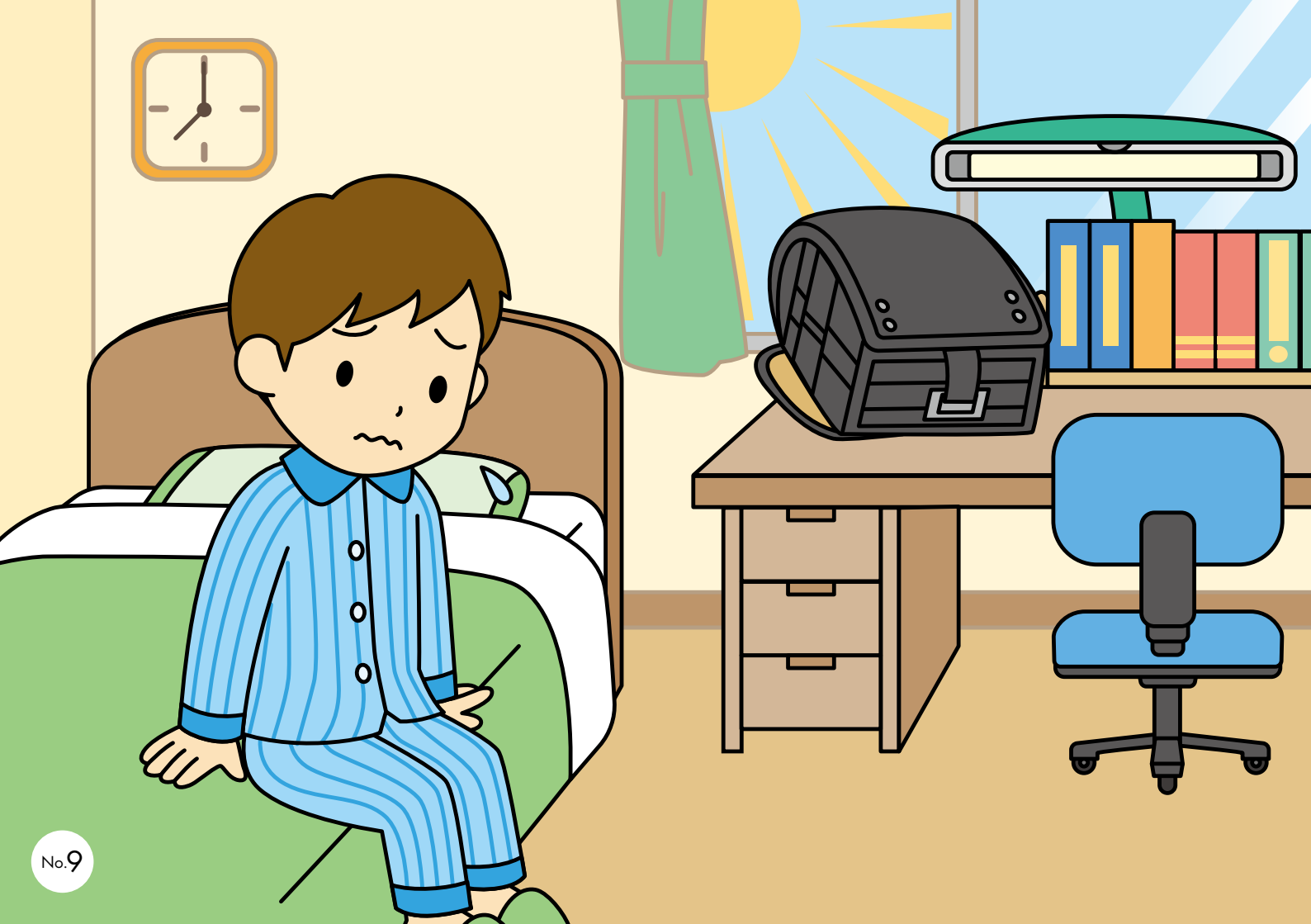
ケンタくんとタカフミくんが、取っ組み合いのケンカをしています。
ヨシオくんやカオリちゃんなどの友だちが遠巻きにして、二人のケンカの場面を見えています。

スカウトへの問いかけ

- ・二人は、どんなことでケンカをしているのだろうか。
- ・まわりの友だちは見えているだけで良いのかな。
- ・もしあなたがこの場所で見たらどうしますか。

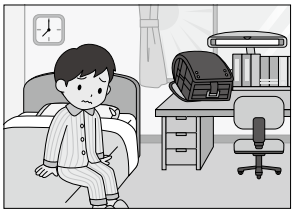
まとめ

- ① どんな場面かを語りかけることによって、子供たちの想像力を引き出す。
- ② まわりの友だちが何をすべきか気づかせることが大切です。発達段階によって、気づくことや、気づいた後にどんな行動がとれるかも違ってきます。どんなことができるか話し合いまじょう。
- ③ 小学生低学年の場合は、指導者との言葉のやりとりによって考えたり、対話の方法を学ぶことができる。
- ④ 仲間同士での会話によって、自分以外の相手のいることに気づくことができる。
- ⑤ 正解がないことについて「本質的に大切なことは何か」を対話・話し合いを通じてつきつめて考えてみる。



学校に行きたくないなあ

(友だちの気持ち)



ストーリー

ぼくは、小学3年生です。

学校に行くと、クラスの中で一番背が低く、朝礼では一番前に並びます。いつも、みんなから「チビ」「チビ」と、からかわれます。

だんだん、学校に行きたくないなあと思うようになりました。

スカウトへの問いかけ

- ・背が低いって、悪いこと??
- ・背が高いとか低いってどういうことかな?

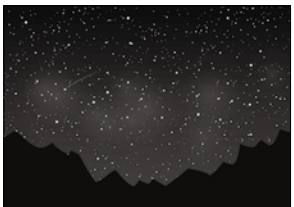
(体に特徴があるとか)

・この小学生が、学校に行きたくなるようにするには、どうしたらいいかな?

まとめ

- ① 一人ひとりには、個性があることを知らせる。
- ② 相手の気持ちを知ることの大切さを話す。





No.10

星空を見つめてみよう (地球の仲間)

ストーリー

目の前にある、大きな空にはたくさんの星があります。君たちが住んでいるこの「地球」もその星の一つです。この地球には、たくさんの方が住んでいます。いろいろな国の方が、いろいろな言葉で話して、生活をしています。いろいろな動物も生きています、いろいろな植物も花を咲かせています。この地球のすべてのものが、君たちの仲間です。となりにいる友だちも同じです。

スカウトへの問いかけ

どうすれば、この地球の仲間とずっと仲良くやっていけるかな？

- ・地球に住んでいるいろいろな人々。
- ・地球にいるいろいろな動物たち。
- ・地球のある自然、すべて。
- ・となりにいる友だち。

まとめ

- ① この世に生まれ、生きている意味を知らせる。
- ② 自分以外の他(人)への思いやりを考えさせる。





No.11

カブリンピックに向けて (互いに助け合う心)

ストーリー

来月の隊集会は恒例のカブスカウトのスポーツ大会「カブリンピック」です。

アーチェリー、射撃（水鉄砲）、円盤投げ、幅跳び、リレーの競技があります。

リレーは全員参加で組ごとに競います。どの組も今年は金メダルを取ろうと張り切っています。その中で3組のアキラ君は暗い顔をして困っています。

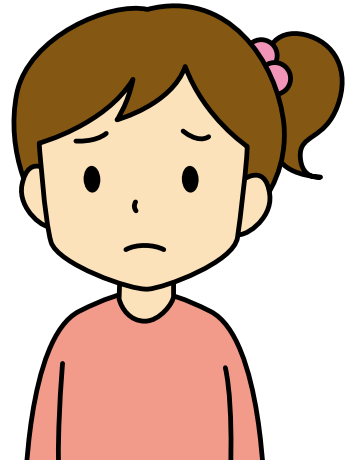
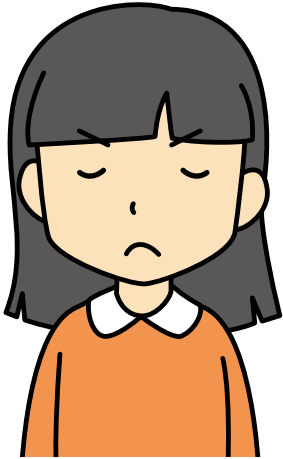
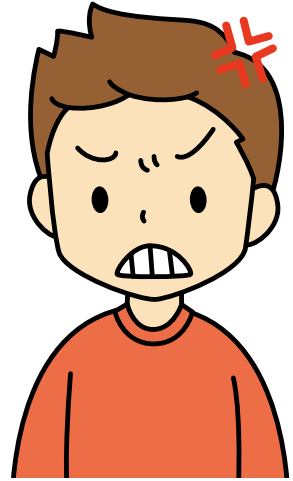
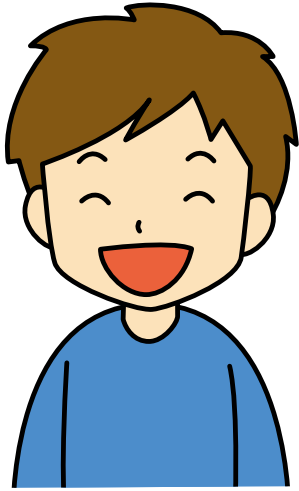
アキラ君は運動が苦手で走るのはいつもビリになってしまいます。自分のせいで3組は金メダルが取れないと心配しています。

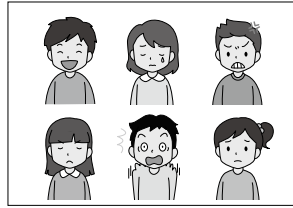
スカウトへの問いかけ

- ・アキラ君はどんな気持ちでいるのだろうか？
- ・アキラ君も一緒に楽しいカブリンピックにするために何ができるのかな？

まとめ

- ① スカウトへの問いかけに対する発表の中から、カブの組の協力、友だちとしての思いやりの心を引き出し、気づかせる。
- ② 指導者として、金メダルだけでなく、協力ができた特別賞や思いやり賞を作ることも一つの方法である。





No.12

どんな気持ちかな

(友だちの気持ちを考えよう)

ストーリー

ここには、いろいろな表情がありますね。

スカウトへの問いかけ

- ・それぞれどんな気持ちかな？
- ・その顔に気づいたとき、あなたはどうしますか？
(例 怒った顔、悲しそうな顔、うれしい顔、困った顔、びっくりした顔のとき)
- ・相手の顔によって自分はどんな気持ちになるかな。

まとめ

- ① 表情から相手がどんな気持ちか考える。
- ② その相手にどのように接すれば良いか考える。

はじめに

「思いやりの心ってなあに」は、ビーバースカウト・カブスカウト向けのセーフ・フロム・ホーム学習教材です。絵を見せながら読み聞かせし、話を聞くスカウトは想像力を膨らませ、映像やインターネットではできない豊かな体験を仲間とすることが出来ます。

多くの保護者は、わが子に「スカウト活動を通じて思いやりの心を持った人になってほしい！」と願っているのではないのでしょうか。

思いやりとは、優しさ

思いやりとは、他人の立場になって考える心

思いやりとは、他人を大事にする心

思いやりの心は、人としてとても大切なことです。では、スカウト活動において思いやりの心はどのようにして培われていくのでしょうか？

人を思いやるには、「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力が必要です。しかし、ビーバースカウトやカブスカウトにとっては、まだまだ自分以外の他人の気持ちは簡単に理解できる年齢ではないため、集会を通じて指導者や保護者が少しずつ教えてあげると共に、スカウト自身が徐々に相手の気持ちを思いやる心を、指導者の支援と仲間の協力を受けて身につけていく必要があります。

ストーリーを読み聞かせ、スカウトにそれぞれの場面の状況を想像させましょう。「あの子はどんな気持ちだったと思う？」「あの子はどう思ったかな？」など、スカウト自身の意見や感想を発表し共に仲間の意見も聞きます。こうしたコミュニケーションが、相手の気持ちを感じとる練習になります。

使い方

スカウトが、思いやりの心を身につけるには、ストーリーを聞いて仲間と話し合い、お互いの意見を聞き、スカウト自身が考えるプロセスが大切です。手順は、次のような内容です。

左記の方法で、進めてください。

① 読み聞かせ

読み聞かせは、絵を見せながら進めます。一回の集会では、1話程度が良いようです。

② 話し合い

スカウトから感想や意見を聞きます。スカウト一人ひとりが発言することが重要です。この時に指導者は「スカウトの問いかけ」を参考に意見を言い易いようにするなど工夫してみてください。また、指導者は、スカウトの意見を否定してはいけません。なぜ、そう感じたのか、質問をすることも良い方法です。

③ まとめ

指導者がスカウトの感じたことや思ったことをまとめます。

※この教材を十分に活用するために指導者の皆様には各県連盟で開催しているセーフ・フロム・ホーム・セミナーを受講することをすすめします。

＜心構え＞

- 言葉の説明では、差別と思われる表現をしないように配慮してください。
- 指導者の思いや考えの押しつけにならないよう介入や誘導に気をつけてください。



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN